



ズワイガニ（オホーツク海南部）①

ズワイガニは我が国周辺では日本海、オホーツク海、および茨城県以北の太平洋沿岸に分布し、本評価群はこのうちオホーツク海南部に分布する群である。本資源の漁獲量等は漁期年（7月～翌年6月）の数値を示す。

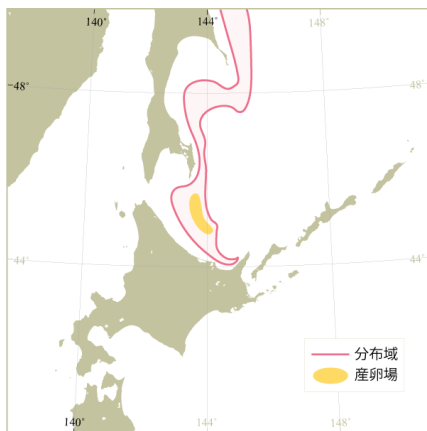
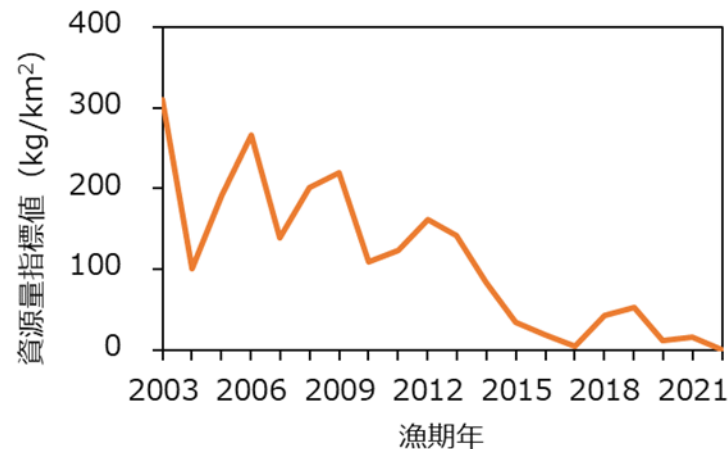


図1 分布図

本資源は日本水域からロシア水域にかけて連続的に分布する「跨り資源」である。



— 分布密度（漁獲対象）

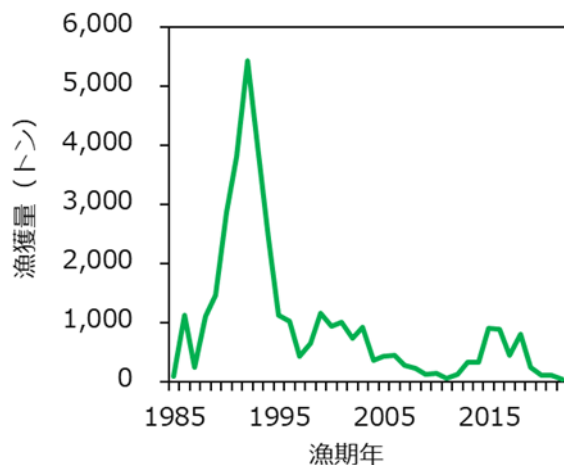


図2 漁獲量の推移

本資源の我が国による漁獲量は、2000年漁期以降減少を続け、2011年漁期には60トンとなったが、その後増加した後、2022年漁期は33トン（沖底オッター：25トン、沖底かけまわし：0トン、沿岸漁業：9トン）となった。

図3 資源量指標値の推移

調査船調査による漁獲対象資源（甲幅90mm以上の雄）の分布密度推定値を資源量指標値とした。資源量指標値は、2003年漁期以降、増減を繰り返しながら減少を続け2017年漁期には5kg/km²となった。その後一旦増加したものの、2020年漁期以降は再び減少し、2022年漁期には0.2kg/km²となった。

ズワイガニ（オホーツク海南部）②

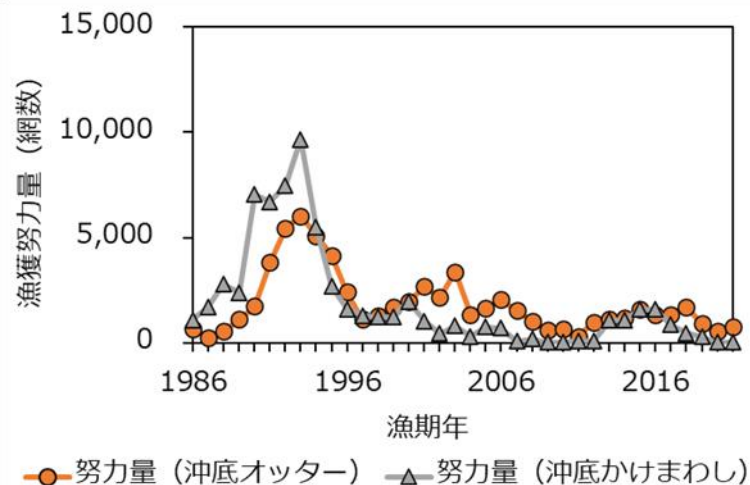


図4 漁獲努力量の推移

漁獲努力量は、沖底オッター、沖底かけまわし共に増減しながら2011年漁期まで減少を続けたが、その後は増加し、2021年漁期には沖底オッターで744網、沖底かけまわしで4網となった。2015～2018年漁期はズワイガニ狙いの操業が増えたこと等により、漁獲量が多かったと考えられる。

本資源の漁獲シナリオについて

本資源の資源量指標値は日本水域における情報に限られ、「跨り資源」である本資源全体の動向を捉えることができないことから、最大持続生産量に関する目標管理基準値や限界管理基準値を定めることは困難である。

本資源の漁獲シナリオでは、我が国の漁船による漁獲の状況等を踏まえて、我が国漁船の操業水域に分布する資源の最適利用が図られるよう漁獲を管理するとされている。

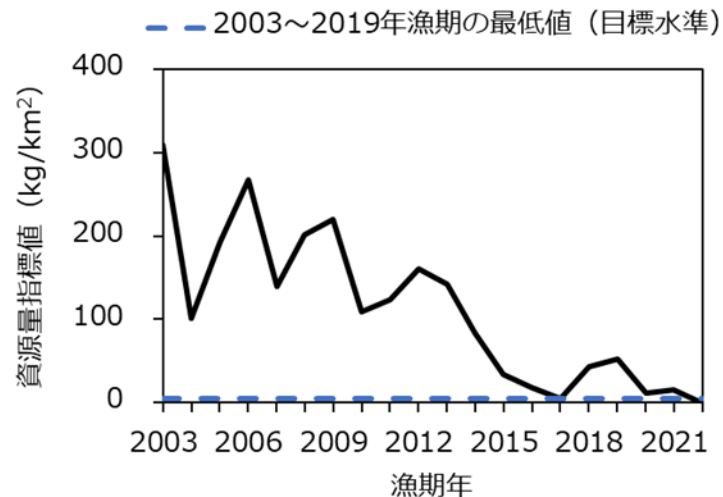


図5 資源量指標値と目標とされる水準

本資源の漁獲シナリオでは、資源量指標値の2003～2019年漁期の最低値 (5kg/km²) が、維持または回復させるべき目標として定められている。2022年漁期の資源量指標値 (0.2kg/km²) は目標値を下回ったが、隣接する東サハリン水域の資源量は少なくないと推察されることから、日本水域漁場への来遊が悪かったためと考えられる。